

第6回 電気学会講演会

演題 機能的磁気共鳴画像法（fMRI）を用いた局在脳機能の研究
講師 程 康 氏（理化学研究所・脳科学総合研究センター）
日時 平成25年12月12日（木）14時30分～16時00分
場所 前橋工科大学 1号館 142教室（群馬県前橋市上佐鳥町460番地1）
主催 電気学会東京支部群馬支所
協賛 NPO Wireless Brain Network
前橋工科大学 工学部 システム生体工学科

この講演会は、医療現場で使用されている機能的磁気共鳴画像法（fMRI）の原理と応用を電気学会会員および学生・教職員に広く知っていただくために企画された。参加人数は123人（学生：113人、教職員：8人、外部：2人）であった。

まず、BOLD（Blood Oxygenation Level-Dependent：血液酸素飽和度依存性）法と呼ばれる機能的磁気共鳴画像法（fMRI）研究において最も広く用いられる手法の原理が分りやすく説明された。つぎに、単純なレチノトピーマッピング研究（ヒト視覚野における視野表象の研究）の結果を示し、fMRI実験が一般にどのように行われるのかということが説明された。さらに、講師の最近の研究の中から、高空間解像度 fMRI によるヒトの第一次視覚野における機能構造マッピング研究、マザリーズ（母親語）が幼児をもつ母親の脳で特別に表現されていることを示した研究、プロ棋士による直感的な決断が生み出される脳の部位についての研究が紹介された。講演後、活発な質疑応答があった。

講演会風景

